

ほととぎす
子規を聞く
(まさおかしき
正岡子規)

一聲孤月下
啼血不堪聞
半夜空欹枕
古郷萬里雲

いっせい
一声
こげつ
孤月の
もと
下

ち
血に
な
啼いて
き
聞くに
た
堪えず

はんや
半夜
むな
空しく
まくら
枕を
そはだ
欹つ

こきよう
古郷
ばり
万里の
くも
雲

解説 作者が自ら子規というテーマを与えて初めて作った漢詩。

語釈 ※子規Ⅱホトトギス。※孤月Ⅱひとつの月、一輪の月。

※啼血Ⅱ血を吐いて啼くこと。またホトトギスの鋭い声から、ホトトギスの啼き声の痛切なことをう。※不堪Ⅱホトトギスの痛切な啼き声を聞くに堪えられない。※半夜Ⅱ夜半。真夜中。※欹Ⅱ一端を上げ起こす、傾ける。

通釈 ホトトギスの啼き声が、一輪の月の下に響き渡る。その痛切な啼き声は、聞くに堪えない。孤独な旅人は、啼き声に夜半、目を覚まして独り枕を引き寄せ、遙か離れた故郷に思いを致すのである。